



まずは直ちに高台へ もし逃げ遅れたときは…

問い合わせ 総務グループ (☎⁸⁵1130)

津波避難ビルのガイドライン(概要)

構造的要件

- 鉄筋コンクリート造または鉄骨鉄筋コンクリート造の建物構造であること
- 耐震性を有していること（昭和56年新耐震設計基準に基づき建築された建物、耐震補強済みの建物など）
- 避難スペースの高さは想定される津波の浸水の高さに3.5m（一般的な階層に相当する高さ）を加えた数値以上にある所

位置的要件

- 北海道が平成24年6月28日に公表した『北海道太平洋沿岸の津波浸水予測図』で、津波浸水予測地域にあること
- 海岸に直接面していないこと

選定

- 要件と合致した建物であっても、避難スペースの確保が難しい施設や使用目的などが特殊な施設、多くの地域住民から不安視された施設などについて、津波避難ビルに適さないと判断した場合には選定しない

東日本大震災では、大規模な津波が発生し、多くの家屋が波にさらわれ壊滅的被害をもたらしました。木造住宅の大半が波にさらわれた一方、鉄筋コンクリート造のビルの多くが倒壊せずに持ちこたえました。市は、万が一避難が遅れ、高台の避難場所までの避難が困難なとき、やむを得ず緊急的・一時的に避難するための施設（津波避難ビル）を選定することとし、9月28日に行われた登別市防災会議で津波避難ビルを選定するためのガイドラインを策定しました。

津波避難ビルは安全を保障する場所ではありません

津波から命を守る可能性が少しでも高い場所として避難するための施設です。最初から津波避難ビルを目指さず、まずは高台の避難場所に避難してください。

今後、地域の皆さんと地域版の津波避難計画を策定するとともに、津波避難ビルの選定を順次行っていく予定です。

逃げ遅れたときは津波避難ビルへ
登別市津波避難ビルガイドラインを策定しました

高台の避難場所を
もう一度ご確認ください

9月10日・11日・13日に行った登別市津波防災研修会のアンケートで、高台の避難場所まで歩いたことがあると答えた方は、約57%。まだまだ高い数値とは言えません。

いつ起こるかわからない災害に備えるには、皆さん一人ひとりが日ごろから防災意識を高め、防災情報を自ら収集し、自発的に避難訓練することが何よりも大切です。

市が全戸配布した『大津波における高台の避難場所マップ』や、『登別市版津波浸水予測図』などを活用し、家族や友人と一緒に、散歩をかねて高台の避難場所まで実際に歩いてみましょう。

市は、今後も防災研修会などを通じ、高台の避難場所の周知と避難訓練の啓発を行っていきますので「津波についての研修会をしてほしい」「高台までの避難訓練を手伝ってほしい」などの要望がありましたら、市職員出前フリートークに申し込みいただくか、総務グループに直接ご連絡ください。